

むさしの TALK

キン・シオタニさん
(イラストレーター)

大型店と個人商店が混在する バランスの良さが心地良いまち

高校時代から「吉祥寺は憧れのまちだった」と言うキン・シオタニさん。住人となってからも、憧れの気持ちが続いているのはなぜなのでしょうか。



僕は大学卒業後の3年間を、就職もせず、毎日まちをぶらぶらするだけで過ごしました。自分でこの時期を「無気力爆発時代」と呼んでいるのですが、卒業するからとりあえずどこかの会社に就職しようとすることに納得がいかなかったのです。でもやることもなく、「楽だけど楽しくない」日々の中で、当時住んでいた東久留米市から自転車で40分かけて、井の頭公園に来て日がな一日を過ごしていました。そして余った年賀状の裏に日記代わりのイラストを描いていたんです。この時に描いたイラストをベースにポストカードを作ったのがきっかけで、僕はイラストレーターになりました。

仕事が増えて、憧れだった吉祥寺に住むようになって、もうかれこれ20年になろうとしています。吉祥寺の中でも吉祥寺南町はリストベクトする著名人の方々が住んでいるので、いつか住みたい場所ですね。そういう点で言えば、吉祥寺は今でも憧れの場所であり続けています。

キン・シオタニ
イラストレーター、詩人。さまざまなメディアに、独特の感性が光るイラストや文章を提供する。近年は「ドローイングシアター」という独特のパフォーマンスを国内外で行うほか、テレビ神奈川などで散歩番組に出演する。井の頭公園でイラストの路上販売を今も時々行っている。

● PRESENT

今回取材した、キン・シオタニさんのイラスト入りサイン色紙を抽選で5名様にプレゼント！詳しくは本誌折込みハガキをご覧ください。



吉祥寺の中で一番好きな通りが中道通りです。小さな個人商店が立ち並んでいるところが魅力ですね。店の人はその分野のプロですから、店のぞくととても面白いし発見があります。僕はユニクロの吉祥寺店がオープンした時の記念マグカップにイラストを描かせてもらいましたが、こういう大きな企業とのコラボレーションも、個人から依頼される仕事も両方大事にしたいと思っています。大きな量販店や百貨店があっつ、个性的な小さな店もたくさんある。パリエーションがあるから良いんですね。今の自分のバランスを僕は「ひとりで吉祥寺」と名付けています。

